

磐城時報

七日刊
編輯兼發行所 阿田 弘 成
印刷所 阿田 弘 成
印刷部 阿田 弘 成
電話 阿田 弘 成
廣告料 一行十四字 一月五拾銭
一年六十拾銭 半年三十拾銭
日刊(日曜、祭日) 休刊

平健康相談所

新築廳舎に移轉

無料診察を好餌として
簡易保険大募集

平町の健康相談所は同郵便局の一室を間借りし不自由な診療を行つて来たが、田町へ新築中の新廳舎が落成したので愈々十一日から獨立し明るい建物で簡易加入者へサービスすることに成つた。新廳舎は新しい太陽熱治療の化學設備がある、外従来なかつた婦人科専門の寢室などがあつた。診察室は特別室と二つ備へて居り、待合室なども小サツパツとしたものであるから今後は利用するもの相當増加するものと期待をかけた。此機會に簡易保険の大勧誘をやらうと平局では抜け目なく計劃を進めて居る。

井上縣議

滿蒙視察談

縣議井上茂作氏は縣南方部官衙會計検査の途上東白川郡棚倉町農蠶學校に於て生徒のため約二時間、棚倉署樓上で消防關係者のため約一時間、滿蒙視察の講演をなした。

古河社長寄附

古河製業社長古河虎之助氏は母堂遺善供養の爲左の如く公共團體へ百五十圓寄附した。

好問古河共濟會、同自治同各五十圓、同體育同及在郷軍人同各二十圓

酒造税の納期迫り

四苦八苦の酒造家

納税低利資金借入協議

本年の税額五十四萬圓

酒造税第一期分の納期は本年末日限りであるが平税務署管内石城郡に於ける酒造家三十七名のあるため前年の如く石城酒造組税額は一ヶ年五十四萬九千圓で合符で納税低利資金の借入第一期分のみで十三萬三千圓をなす事となり十五日前後協議送して居る、而して財界不況の會を開く事になつた、尙ほ本年

大野村の

地之後悔

昨報石城郡大野村字柳生地内に於ける大地は六日正午ころに至るも歇まず所轄四倉署から大野村の

飲食店の自殺事件で

媒合容止の嫌疑

平町字南町織田齒科醫院方平清太郎(二七)が六日同町飲食店を屋敷敷藤太郎方で毒藥をのみ自殺を遂げた事昨報の如くであるが、平署では弓屋方で清太郎を宿泊せしめた事實があるのので飲食店業者が媒合容止となるか、或いは又酌婦布川ハナが密淫賣となるか否が詳細取調中である。

安積高女校

臨海學校

縣立安積高等女學校ではいよいよ廿日から本年度の夏中休暇に入るのので校友會員及び全校生徒中から希望者を募集し廿五日から卅一日まで一週間に亘り石城郡曹田海水浴場において合宿水泳練習を行ふ計劃である一方登

無情な父親に 捨てられた子供

不良の群に入つて窃盗

四倉町字新町長谷川好次郎長男た、松太郎の母は本年二月死亡長谷川松太郎(十四)假名は四月、父好次郎は間もなく久之濱頃から同町鈴木賢二、石川鐵三町の某女と松太郎外三名の子供等、渡邊辰治外数名所有の漁船を置いて駆逐し行衛不明となつた。發動機附屬品を盗み出したため弟三名は親戚方に引取り物商に賣り飛ばしてゐた事四倉、松太郎のみは不良青年の群署に探知され六日午後一時頃海に投じて窃盗を働いてゐたもの岸を徘徊中小山田刑事に捕はれたのである。

委託品を横領

平公立運送店告訴さる

平町一丁目平公立運送店では昭六日平公立運送店山本昇は森川和五年一月十日明石市大門町製粉所代表佐川薫から平署に告三丁目森川製粉所から平町一丁目三丁目製粉所に送る可き貨物引換爲替の苦汁エキス二十八箱百五十七圓を委託され久野方に半分を渡し相當代金を受取り残品警備高女校水泳部では八月一日は自分で處分したが代金を委託から六日間久之濱影磯海岸で同者に渡さず横領したといふので町小學校に本部を置き正木校長

警高女生

水泳練習

警備高女校水泳部では八月一日は自分で處分したが代金を委託から六日間久之濱影磯海岸で同者に渡さず横領したといふので町小學校に本部を置き正木校長

四倉小唄、四倉音頭

四倉小唄
春は櫻が かの公園に 瓢箪
かたがて 花見も嬉し かは
す盃 花びらうけて 飲めば
ほんのり 戀心地 ソレ戀心
地
夏は楽しい 海水浴に 松の
砂浜 女波がまねく 派手な
水着の 姿も嬉し 好きなお
方と二人づれ ソレ二人づれ
秋は月見の あの新舞子 君
とどろくに 松原ゆけば 沖
の漁火 浪間に浮いて 月の
濱邊に 千鳥啼く ソレ千鳥
啼く
冬は名物 それ火合戦 散ら
す火花に 勝鬨あげて 男ら
ごころの 血も燃える ソレ
血も燃える (終り)

四倉音頭
色の黒いは 伊達にはやけぬ
ちよいと見とくれ ちよいと
見てくれ あ大漁 俺は四倉
濱育ち トコヨイヨイ 四ツ
倉 ヤレノセイ
海は遠淺 浪さい静か 常磐
一の 常磐一の 海水場
暑さ忘れに せひお出で
やんれ見やんせ 大植林を
幹も太れば 幹も太れば葉も
繁る
繁りや繁る 町の富 四倉
花が咲いたよ 千鳥ヶ丘に
色香ほんのり 色香ほんのり
艶姿 沖の千鳥が 逢いに來る 四
倉
濱は白砂 みぎりの松に 清

ハガキ集 (投書歡迎)
濱三郎の理髮業者へ注告
近頃理髮業界にも試験が行は
れる、然るに今日の業者は衛
生と云ふ方面に至つて怠慢、
客に使ふ器具の消毒は一向か
まはず傳染病が流行してゐる
昨今は消毒を完全にす様忠
告する。
(相馬郡原町圓下左膳)

初め水泳部の職員のコーチによ
りクローンと日本泳法をミツク
スしたものを練習する等目下
希望者を募集中である。

川前の 一歳駒糶

豫想外の好成绩
石城産馬畜産組合では四日、五
日、六日の三日間川前村大字下
桶賣で二歳駒糶を行つたが、出
場馬數百三十九頭、價格は最初
一頭平均三十八圓内外の豫想で
あつたが最高百五十圓、最低十
八圓、平均四十四圓二三錢、總
價格五千五百九十八圓といふ好
成績であつた。

讀者論談

投 稿 敬 迎

青年諸君へ

(大) 四倉町 吉田松雄
 如何なる場合に於ても人間の生活には絶対の理智もなく、絶対の感情もなく、相対的に幾分理智或は感情の量が多或少いといふに過ぎないものである。人情の機微を行くには感情がよい。問題の解決には理智がよい。
 青年が人情の機微を窺ふのは余り或心すべき事でもないが、さりとして乾燥無味に理智から外に情愛のないのも荒野が沙漠を行くやうで、人間味が乏し過ぎる嫌ひがある。
 諸君に對して俺はその執れにも偏し過ぎてはならぬことを勧めると共に麗しい萬花鏡のやうな豊かな感情の持主であると共に透徹水晶のやうな理智の所有者になる事を勧めねばならぬ。
 温容絹布で他人を包むやうな柔かな感情、透明、底の底まで透視できる所謂裁断流るゝが如き理智を藏する人格者を諸君に看ないのである。
 5. 精神的生活の價值
 人間として眞に價値あり、意義ある生活を求める青年にとつては、その物質的の欲望は要するに浮雲の如きもの弊履の如きものである。戀愛、音樂、詩歌を解しない時代遅れの老人株は戀愛といへば性交を主として聯想して男女關係を想像し、音樂といへばお茶屋の三味線の音、教會のオルガンの音律と言ひ、詩歌といへば端唄、江戸唄、その外月並式の俳句の爲めに作る俳句和歌の爲めに作る和歌をして解しないのである。
 さうした老人も青年時代は戀愛も音樂も詩歌もその生活の主要部分であつた。

氷の御用は

電話四六七番へ

勿來製氷會社一手販賣
 平二丁目 魚清氷卸部
 警察署通り
 支店 江名濱築港内
 江名販賣所
 電話六十九番

新築移轉御披露

今度店舗擴張のため新築移轉しました。御客様方の御引立により新築させて戴いたので、御自分の店舗の如く御思召して御來店の程偏にお願い申上げます。

- 調髪は……吉田入道軒
- 技術は……親切第一
- 理髮衛生完備
- バイブレーター……のサービス
- 電気マツサージ……のサービス

平町字紺屋町十二番地
吉田入道軒
 (舊店舗西隣)

ダンス研究生を募る

下山竹の子一座専屬レレユウ團の
研究生募集
 御希望の方は左記へ
 平町聚樂館 東源へ

正札堂の……夏服

- 黒セルセビロ 上下 六圓ヨリ
- パンピニスセビロ 上下 八圓五十錢ヨリ
- ポーラーセビロ 上下 九圓ヨリ
- ポーラー最上品 三ツ組 十八圓五十錢
- 白ズボン 七十五錢ヨリ

正札堂洋服店
 電話四三六

専門内科一般

内科六何デモ診療致マス
 呼吸器病バカリデハアリマセン
 平町南町六五改(電話一八一番)
川井内科診療所
 醫學士 川井重子
 女醫 川井安子

小學生用防水マント

入學進級のわ子様方へ
 完全なツルヤの
防水マントを
耐久三年以上
 中ゴム合セ別誂マント
 進入生用
 男 二 二圓三十錢
 女 二 二圓三十錢
 平四 ツルヤ 電話二四〇

吉田眼科病院

平町紺屋町 電話六八番

和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店
 諸橋久太郎
 電話九九九番

初夏飲料
 オラカビル
 純粋取焼酎
 サイダー各種
 平町新川町
 永山酒造店
 電話二七〇番

外科 内臓外科 整形外科 醫學士松永憲一
 婦人科 院長 木村寅次郎
木村病院
 平町字新川町
 電話一六四番